

琉球大学学術リポジトリ


在沖フィリピン人女性のアイデンティティと沖比国
際結婚夫婦間コミュニケーションに関する研究：
社会的構築主義の視点から


メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2017-03-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 仲里, 和花, Nakazato, Kazuka メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/33726

琉球大学大学院
人文社会科学研究所委員会 殿

博士論文審査委員会

主査 _____ 石原 昌英  印

副査 _____ 浜崎 盛康  印

副査 _____ 喜納 育江  印

学位（博士）論文審査の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、学位論文の審査を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学生番号	128094F	学生氏名	仲里 和花
人文社会科学研究所 比較地域文化専攻		主指導教員	石原昌英
		副指導教員	浜崎盛康・喜納育江
成績評価	学位論文	<u>合格</u>	不合格
論文題目	在沖フィリピン人女性のアイデンティティと沖比国際結婚夫婦間コミュニケーションに関する研究—社会的構築主義の視点から—		
審査要旨	<p>本学位論文は、日本人（沖縄人）男性と結婚し、沖縄県に在住するフィリピン人女性を対象とした半構造化インタビューで得られたデータを分析し、社会構築主義の立場から考察を行っている。すなわち、「人間のアイデンティティや人間の関係性は、言語によって構築される」という視点から、在沖フィリピン人妻たちは「言語を媒介として、どのようなアイデンティティを構築しているのか、そして、沖縄人夫との言語による相互作用を通して、どのような夫婦関係を構築しているのかを明らかにしている。</p> <p>また、彼女たちが、日本語、英語、タガログ語、及びその他のフィリピン地域言語という複数の言語を使い構築している多元的アイデンティティは、妻、母、嫁等の役割に応じたアイデンティティでもあり、そこにはアイデンティティの統合と揺れ、更新があることも明らかにしている。</p> <p>本論文は、これまであまり研究されていなかった在沖フィリピン人妻の言語使用とアイデンティティに注目し、沖縄人夫や家族との関係を良い方向へと変えていくことが可能であることを示唆している。</p> <p>以上のことを評価し、本審査会は、本博士論文が博士の学位論文に値すると判断する。</p>		

琉球大学大学院
人文社会科学研究所委員会 殿

博士論文審査委員会

主査 石原 昌英 印

副査 浜崎 盛康 印

副査 喜納 育江 印

最終試験の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、最終試験を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学生番号	1 2 8 0 9 4 F	学生氏名	仲里 和花
人文社会科学研究所 比較地域文化専攻		主指導教員	石原昌英
		副指導教員	浜崎盛康・喜納育江
成績評価	最終試験	<u>合格</u>	不合格
結果要旨	<p>副査・喜納育江の総括のもとで、申請のあった博士論文の内容とそれに関連する授業科目についての口頭による最終試験を行なった。</p> <p>本論文の題目は、『在沖フィリピン人女性のアイデンティティと沖比国際結婚夫婦間コミュニケーションに関する研究—社会的構築主義の視点から—』である。以下の4点を軸に試験を行なった。</p> <p>まず、口頭試問（面接審査）での関連質問を行ない、本博士論文が学位の水準に達していることを確認した。次に、本博士論文に関する基礎的な専門知識や論文の研究上の位置づけを問い、研究上の貢献のあったことを確認した。そして、本博士論文で取り上げた研究分野に関連する授業科目「言語政策演習」「ことばの相互行為特論」「アメリカマイノリティ文学特論・演習」「比較地域文化特別研究」「比較地域文化総合演習」などの履修によって得た視点、そして、日本コミュニケーション学会等の国内学会での研究発表や同学会の学術雑誌などへの論文投稿を積極的に行なっていること、地方学会での研究発表や論文投稿も積極的に行なっていること等々、学位にふさわしい研究能力とその学識を有していることを確認した。</p> <p>以上の点から、本審査委員会は当該学生が学位の水準に達していると認め、最終試験に合格したと判断する。</p>		